



Title: 拝啓『一筆啓上』様

図書館の指定管理2年目が終わってひと月が過ぎ、平成26年度の実績がようやくまとまるどころです。26年度後半の12月から3月までの来館者数と貸出冊数は、豪雪の影響でしょうが各月とも前年を下回りました。それまでは比較的順調に来ていたのが一転しヒヤヒヤしましたが、通年ではなんとか前年を上回り、ホッとしています。

数字だけが仕事の質を表すものではないでしょうが、指定管理者が数字を求められるのも現実です。貸出冊数だけが求められるのなら、予算は同じだとしても方法があります。でも公共図書館はそういうわけにもいかない。そこが面白いといえれば面白いところなんですけど…。

❖ 記念日がいっぱい

4月30日の本紙『一筆啓上』は、「きょうは図書館記念日」という書き出しで始まっていました。

前回のこのコラムでユネスコの「世界図書・著作権デー」がシェイクスピア、セルバンテス等の命日だと書きましたが、図書館記念日は永井荷風と大仏次郎の命日でしたか。すぐ脱線しますが、漫画の日があるなら手塚治虫の誕生日か命日だろうかとネット検索してみたたら、おやまあ。誕生日の11月3日は「まんがの日」（日本漫画家協会制定）、命日の2月9日は「漫画の日」（まんだらけ）だって。さすがは漫画の神様。

読書に関する記念日はいろいろあります。4月23日のサン・ジョルディの日が「こども読書の日」、「世界図書・著作権デー（世界本の日）」なのは前回書いたとおり。変遷はありますが昔からある読書週間の初日、10月27日は「読書の日」。加えて同日は平成17年から「文字・活字文化の日」にもなっています。それから「こどもの本の日」というのもあって、これは毎月第4土曜日です。さすがに少し商売っ気が濃いような気もしますが。

上記の一筆啓上欄には横浜市の大仏次郎記念館の記述もあり、去年の秋に何十年ぶりに「港の見える丘公園」を訪れたのを懐かしく思い出しました。元町駅から歩くと外国人墓地、洋館の数々、そして港の見える丘公園と、絵に描いたようなバタクさい港町情緒が満喫できます。大仏次郎記念館は公園内でも風格のある建物で、庭園も見事。入ってみたかったのですが、同公園内の神奈川近代文学館で開催中の「須賀敦子の世界展」を見るためだけに行ったので、時間切れで断念したのが今更ながら残念です。

❖ 小さなことから

ユニバーサルデザイン（UD）とバリアフリーという、似たような意味の言葉があります。違いがわかりますか？

言葉の意味から言って、「ユニバーサル（万人の、普遍的な）+デザイン（設計、構想）」と「バリア（障壁、障害）+フリー（自由な、障害のない）」ですから、元々の発想が違います。バリアフリーは障がい者や高齢者などの社会的弱者への障壁の

除去を、UDは壮健な人もそうでない人も外国人などの文化的少数者も同じように使える生活環境のデザイン手法として始まりました。その視点は異なりますが、実際の現れは似たようなものになりがちです。

日本でこれらの言葉が広まってきたのは、バリアフリーが80年代以降、UDは90年代後半からです。70年代から80年代前半にさかんに建てられた日本の公共建築にはその思想が十分には盛り込まれていないわけで、市立図書館も中央図書館や田代図書館はとくに課題を抱えています。

大規模な改修や改築にすぐ取りかかれるという時代ではありませんから、図書館の管理者としてできることは、気がついたところから改善していくということになります。たとえば床を這っているコードを天井に迂回させるとか、重いと利用者から指摘のあったドアを少しでも軽くするとか、サインを再検討するとか、です。この時に役立つのが利用者からのご意見やアンケートです。毎日図書館にいるからといって図書館がちゃんと見えているわけではないと、気付かされ反省させられる貴重な情報です。どうか少しでも気がついたことを、利用者の皆さんからも発信していただきたいと思います。

この地での理想の図書館づくりのための勉強や研鑽も怠らずに、地に足をつけた一歩一歩をも大事にしたいと思う今日この頃です。 (陽)